

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25220003	研究期間	平成25(2013)年度 ～平成29(2017)年度
研究課題名	多様なソフトウェア資産の収集・ 分析・評価と効果的な利活用の研 究	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	井上 克郎 (大阪大学・情報科 学研究科・教授)

【平成28(2016)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、ソフトウェアの積極的な再利用の基盤となる利活用支援フレームワークの基本技術を開発し、実用化することを目標としている。この目標へ向けて、個別の研究成果を IEEE の学術雑誌、ICSE などの著名な国際会議の場において発表するなど、着実に成果を上げつつある。

今後は、これらの個別の研究成果をまとめ、フレームワーク全体の支援システムに関する議論を深めつつ、その成果を学術雑誌や国際会議で発表するとともに、実用化へ向けた更なる進展と成果を期待する。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	本研究では、Software Analysis and Reuse Framework (SARF)と称するモデル化の枠組みを考案して研究を行い、Software Universal Graph (SUG)と呼ぶグラフを構築し、ソフトウェア間の利用関係を可視化した。 また、研究成果を多くの学会誌論文や国際会議などで発表している。 今後は、これらのモデル化やツールを用いて、ソフトウェア資産の効果的な利活用技術の推進に関してさらに研究を発展させることを期待する。